

## 目標達成計画

作成日: 令和8年2月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念を共有したり、実践を理念に照らして振り返ったりする機会が激減している。話し合いに参加できる職員の減少により、十分な話し合いの時間を確保できていない。そのことで理念の共有が不十分と見られる場面がある。	より多くの職員が話し合いの場に参加できるようにする。	管理者が職員の意見を聞き取り、会議や話し合いの時間などの希望を拾い上げる。IT技術の習熟を苦手とする職員がリモート会議に参加できるよう援助する。	3ヶ月
2	35	BCPの担当者を配置して災害対策に取り組んでいるものの、災害時におけるヒューマンケアの課題が明らかにされていない。	災害時におけるヒューマンケアの課題を明らかにして、運営推進会議で話し合い、具体的な協力要請をしていく。	BCP計画の見直し、訓練による職員への周知・浸透、その他の災害対策の見直しをすることで、ヒューマンケアが必要とする支援を具体的にあげる。	3ヶ月
3	4	運営推進会議には、ご利用者の話し相手や交流活動に前向きなメンバーがいるにもかかわらず、具体的に進展しないのは、会議がその場限りのものになっているからではないか。	保育園との交流を具体的に進める。	管理者が窓口になって、保育園の担当者と交流についての話し合いをする。	6ヶ月
4	49	コロナ禍を経て、利用者の社会参加の意識が職員に育っていない。利用者の人生にとっての外出の意味を職員が理解できていない。散歩や買い物に出かけるにあたっては人員不足につき職員の柔軟な対応が難しい場合が多い。	利用者の人生にとっての外出の意味、社会参加の意義を職員が理解して、希望に沿った外出支援ができる。	利用者の生活を施設内だけで完結させないよう現状を見直す。職員だけでは支援が難しいことを家族に説明し、家族の外出支援を促す。	6ヶ月
5	11	項目1と同様。	項目1に準ずる。	項目1に準ずる。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。